



じょうもん えすでいーじーず 縄文とSDGs



北海道庁 縄文世界遺産推進室 特別研究員の阿部千春先生に、縄文と最近話題のSDGsについて聞いてみました

- ◎ 縄文時代の社会は、弱い立場に対する相互扶助の精神に満ちていたんですね。
- ☆ それは、「命」というものを大切にしていたことの証でもあると思うよ。
- ◎ 私もそう思う！
- ☆ 約 4200 年前の一時的な寒冷化の後、約 3000 年前にも冷涼化が進んだけど、そこでも命を大切にされた縄文人の心が分かる遺跡があるんだよ。洞爺湖町の高砂貝塚では、妊産婦の人骨のお腹の部分から胎児の骨が見つかった墓があるんだ。その墓だけ、特に赤色顔料のベンガラが多くまかれ、念入りに埋葬されていたようだよ。
- ◎ ということは、出産の時に亡くなったのかな。当時は、いまよりも出産は命がけだったことは想像できるし…。
- ☆ これから新しい命が集落に生まれるという喜びが、一転して深い悲しみに変わった様子が目に浮かぶよね。
- ◎ うん、わかる。現在も SDGs の目標 3 で「妊産婦保健」の施策がとられているけど、命を繋いでいくことが一番大事だよな。
- ☆ その基本となる「家族の愛情や社会の絆」、そして「全ての命を大切に作る心」、これらは縄文時代からずっと培われてきた根源的な価値観だよな。その価値観が現代社会で揺らいではいないか？ そんな視点で現在の社会を考えることも必要だよな。
- ◎ たしかに、そうだね。阿部先生が言っている「考古学は未来学」ってそういうことね。
- ☆ 正解～。 (笑)



北海道発 縄文 JOBON

縄文初心者むけ やさしい縄文読本



このち

北海道・北東北の 縄文遺跡群 デジタルアーカイブ

北海道・北東北の縄文遺跡群に関する情報(写真画像動画、調査研究成果等)を、誰でも無料でダウンロードすることができます。



<https://jomon-japan.jp/archives>

<北海道発> 縄文初心者むけやさしい縄文読本



JOBON

「縄本」のバックナンバーはこちらからダウンロードできます。



www.jomon-do.org/jobon

※本リーフレットは「北の縄文道民会議」公式サイトからダウンロードし、幅広くご活用(印刷、無償配布等)いただけます。ただし価格をつけての販売や内容の改変は禁じます。著作権は制作者に帰属します。詳細はwebサイトにてご確認ください。

<北海道発> 縄文初心者むけやさしい縄文読本【縄本 JOBON (ジョーボン)】vol.06「いのち」
発行日: 2023年1月1日 / 制作・発行: 北の縄文道民会議、ドニワ部 / デザイン・イラスト: 種田 祥、上田 忠太郎、To.t



JOBON に関するお問合せ
北の縄文道民会議
札幌市中央区大通東1丁目3中央バスターミナル2F
CBツアーズカンパニー内 TEL: 011-221-1122

世界文化遺産の縄文遺跡群に関するお問合せ
北海道環境生活部文化局文化振興課
縄文世界遺産推進室
TEL: 011-204-5168

いのち

大自然とともに暮らした縄文の人々
 危険と隣り合わせの狩りや漁撈
 病気との闘い、自然災害など、
 いのちを繋いでいくことはとても大変な事だったはず
 親や幼い子どもたちの
 大切ないのちが失われる瞬間に何度も直面しながら
 縄文の人々は何を祈り
 どんな願いを託したのでしょうか
 「いのち」と「再生」
 縄文のココロに触れてみたい

土偶のモチーフ

土偶は造形や模様の特徴から、女性や妊婦さんをかたどったものが多いといわれています。無事に出産できますように、自然の豊かな恵みを祈り感謝をする気持ち…。縄文人はどんな思いをこめて土偶を作ったのでしょうか

国宝
土偶



曲線と直線

「曲線の極小の一部は直線に近い。その一部をさらに細かくしていけばそれはほぼ直線に見える。しかし、それは決して直線ではない。」こう言ったのは20世紀前半に活躍したフランスの哲学者 アンリ・ベルクソンである。これは一つの真理。同じように、「命とはなにか？」を考える場合、人体をどこまでも細分していき、遺伝子レベルまで辿り着いたとしても、曲線が直線ではないようにそれは決して「命」の本質ではない。ここに科学と哲学の境界がある。むしろ、自然の一員として一万年以上存続した縄文文化を学ぶことが「命とはなにか？」を探る究極の旅になるのではないだろうか。

C.Abe

- そのためには、より健康で強い子供を産む必要があったはず。
- サラブレッドのタネ馬みたいな感じ？ 遺伝子っていう概念はないだろうけど、優秀な子孫を残すために、狩りが上手で強い男性、安産の女性や妊娠した女性は、ムラとして特に大事にされたのかもしれないわね。
- え、待って。好きな人が違う女性と子供を作ることもあるってこと？ 私だったらそんなの絶対に嫌〜！ 泣
- 小さな命が失われる場面に何度も直面したからこそ、元気な子を産むことにこだわっていたのかもね。大きな家族とも言えるムラを守っていくためなら人は強くなれる。それは浮気でもないし、野蠻でもない。だからジェラシーとかしなかった！…のかも。いや納得してても嫉妬はするかもね〜。
- ムラのためなら！でも切なさすぎる…。
- 私が「ラブラブ江別」って勝手に名付けている土偶は、男女のペアなんだって。お墓の中に重なり合って置かれていたって言うから、また新たな命が生まれることを願っていたのかなと思って。
- クルミを割ったりお肉をすりつぶすための道具「すり石」と「石皿」の関係にもびっくりよね！(p4) 「すり石」は男性、「石皿」は女性を表していて、男性のお墓には女性である石皿が、女性のお墓には男性であるすり石と一緒に埋葬されているんだって！
- お墓の中でも男女は一緒に、新たな命がまた生まれるように…という願いを込めたのかしらね。深いわね…。

- 土偶は女性のモチーフが多いけれど、男性のがモチーフの遺物は「石棒」があるよね。美しく磨かれた棒もあれば、縄文時代には珍しく、恥ずかしくなっちゃう程リアルな造形も…ゴクリ
- キウス周堤墓から出土した石棒は、長さが60cmもあって、左右対称に磨かれ、先端にはかっこいい模様もついているのよね！機械もないのに手作業でどうやって作ったんだろ？時間もすごくかかるだろうし。
- そこまでしてでも、どうしても作る必要がある大切なものだったのね。
- どんな遺物でもあまりエッチな気持ちで見ないでほしいの。いのちを繋いでいくことに真摯に向き合う縄文人の気持ちを少しでも感じ取れたらいいわよね。
- 厳しい環境の中で、縄文時代の人たちにとって「子作り・子育て」はムラのみんなの大事な共同作業だったのね。
- 子供は「夫婦の子供」であり同時に「ムラの子供」。みんなで役割分担してね。「むらむら担当」のモテモテお兄さんとか、「おっばい係」のぼいんなお母さんとか。
- 危険や不安もいっぱいあったけれど、喜びも悲しみもみんなと一緒に味わったんだろうね。勇気づけあって。
- ある意味、今よりも「生きやすい」世の中だったのかも。私、早く帰って子供をぎゅって抱きしめたくなっちゃった！
- たくさんぎゅってしてあげて！ 私たちは縄文人のDNAの12%を受け継いでいるんだもの、きっと共感できる部分も多いはず。改めて「いのち」を大切にしましょう。(次回につづく)

★【縄文女子の妄想トーク】は、縄文をこよなく愛する縄文女子たちの個人の主観に基づく妄想トークがメインになっています。学術的に正しいかどうかは置いておいて、素人目線の「こうだったのかな」「こうだったらいいな」という妄想ワールドを、どうか生暖かい目で楽しんでいただけたら嬉しいです。